

第4部 おやべ夢構想

「おやべ夢構想」とは

第6次総合計画の基本構想の目標年度である平成30年度までには、その達成が困難と思われるものであっても、さらに長期的な展望に立って取り組むべき課題として、8つの構想を「おやべ夢構想」として位置付け、将来に向けての長期ビジョンを描きました。

この「おやべ夢構想」は、次の点に着目して設定しました。

- (1)すでに着手しているが、効果が現れるまで長期にわたって継続的に取り組む必要があるもの
- (2)すでに調査等は行われてはいるが、費用対効果の検証など、具体化に向けて様々な課題の整理が必要なもの
- (3)市民の多くが、おやべの将来の夢として、その実現を心待ちにしているもの

なお、「おやべ夢構想」を推進するにあたっては、技術的実現可能性、費用対効果、また、地域づくりの観点から適切であるかどうか、さらには国、地方とも極めて厳しい財政事情の下で、それ相応の財政的な裏付けがあることも必要であり、そうした点も考慮しながら、必要な施策を選択し、常に内容の見直しを行いながら取り組んでいきます。

構 想 1

「稲葉山・宮島峡 “癒しの観光ゾーン” 構想」



標高346mの稲葉山からの絶景、のどかな放牧風景、風力発電の回る風車、子供に人気のふれあい動物広場、一の滝や二の滝に代表される清流と緑と伝説の宮島峡、さらには、稲葉山のふもとを流れる水運を開く小矢部川など、稲葉山から宮島峡にかけての帯は、人々を引きつけ、魅力あふれる風景や観光資源に恵まれています。この稲葉山・宮島峡エリアを、「癒しの観光ゾーン」として一体的に整備することにより、多くの人々が気軽に訪れる身近な観光地を目指します。

構 想 2

「メルヘンの街おやべ構想」



現在、35あるメルヘン建築は、地域のユニークなシンボルとして、周囲の自然環境にマッチした夢のある施設として市民に愛され、彫刻の里の宮島峡に建つ世界の女神像（ビーナス像）とあわせて、小矢部独特のメルヘンチックな世界を感じさせてくれます。また、メルヘン米、メルヘンポーク、メルヘンに関連したお菓子など、メルヘンにこだわった地域ブランドも広く浸透しつつあり、ハード面だけではなくソフト面も含めて、市民をあげてメルヘンのまちづくりを進めていきます。

構 想 3

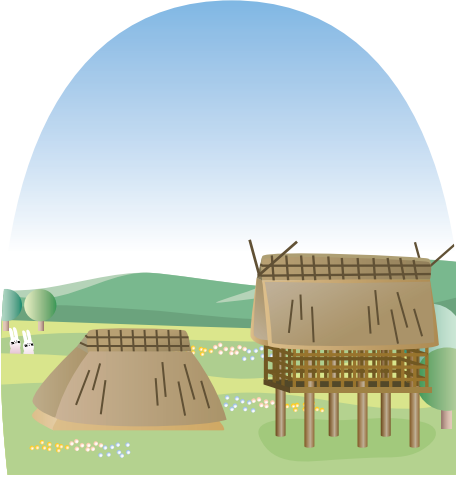
「源平の倶利伽羅 “歴史体感ゾーン” 構想」



倶利伽羅峠は、源平の合戦で木曾義仲の軍が、奇襲戦法“火牛の計^{*}”を用いて平維盛率いる平家軍を破ったことで全国に知られています。現在、手軽なハイキングコースとして親しまれている歴史国道の「倶利伽羅いにしえ街道」は、源平合戦が展開された戦略の“みち”であり、毎年、津幡町と合同で歴史国道^{*}イベントを実施しています。倶利伽羅周辺には、源平の歴史をしのばせる歴史資源が数多くあることから、このエリアを「歴史体感ゾーン」として一体的に整備し、「源平」をキーワードにして地域の活性化を図っていきます。

構 想 4

「桜町遺跡* “縄文の里” 構想」



桜町遺跡*は、高床建物の柱材と考えられる木柱の発見により、それまでの縄文時代の定説をくつがえした縄文遺跡として全国的にも知られています。遺跡を愛する市民縄文ボランティアの活動によって、子供たちに歴史ロマンを伝えるなど、市内外に桜町遺跡*の情報を発信し続けています。今後は、桜町遺跡*の国重要文化財の指定を目指すとともに、遺跡発掘現場の周辺で、当時の縄文ワールドを再現した“縄文の里”を整備することにより、この貴重な歴史的財産を市民の大切な財産として後世に残し、桜町遺跡*を歴史分野の小矢部ブランドとして、その保存活用策を進めていきます。

構 想 5

「今石動城址と寺院のまち構想」



加賀藩の前田利秀が居城した今石動城は、城下町今石動のシンボルであり、宿場町として栄えた石動町の原点です。また、軍事・政治の要衝地として前田利秀が行った寺院集中策により、真宗本願寺派4か寺、真宗大谷派17か寺、日蓮宗1か寺、曹洞宗3か寺、浄土宗1か寺、真言宗3か寺の計29ものお寺がまちなかに集中しており、趣のある風景を演出しています。今石動城址周辺を一体的に整備するとともに、全国の遊歩百選にも選ばれた「石動の寺と石仏(永伝寺)」をさらに充実させ、全国にPRしながら、「歴史を感じるまち」、「行ってみたい、歩いてみたいまち」として、まちなか全体を計画的に整備していきます。

構 想 6

「小矢部IC周辺 “ショッピングゾーン”構想」



北陸の大動脈である北陸自動車道、能登半島へ伸びる能越自動車道、そして北陸と太平洋側とを結ぶ東海北陸自動車道が交差する「北陸の十字路」として、小矢部市は高速道路網の優位な地点に位置しています。その地理的優位性を活かし、小矢部IC周辺に市内外はもとより、県外からも誘客を見込める施設として大型ショッピングを誘致し、この施設を核となるショッピングゾーンとして整備を行い、交流人口*の拡大を目指します。

構 想 7

「石動駅周辺 “賑わいゾーン”構想」



石動駅周辺について、駅南土地区画整理事業による道路や公園、駐車場などの整備とあわせて、歩行者の南北自由通路に加え、車が常に行き来できるよう南北一体道路を整備し、これまで北陸本線で寸断されていた駅前商店街と駅南地区がスムーズに人や車が行き交うことが出来る賑わいゾーンとして整備し、市外の人達を呼び込み市街地の活性化を図ります。

構 想 8

「総合ペット施設誘致構想」



最近のペットブームを見据え、犬や猫等に代表されるペットの関連施設として、専用クリニック、専用美容室、ドッグラン*等休憩施設、ペット用品販売施設、葬儀施設などを、計画地に集中的に配置されるよう民間事業者を誘致、誘導します。このようにペットを可愛がる人達のペットも宿泊できる宿泊施設も誘致します。日本で初めての人もペットも利用しやすい総合ペット施設として県内外に情報を発信し、多くの利用者呼び込むことで、交流人口*の拡大を図るとともに、ペットとともに市内に訪れた人々による経済波及効果を期待します。

*ドッグラン：犬の飼い主がマナーを守りながら、犬を飼育していない人達から分離されたスペースの中で引き綱をはずし、自由に運動させたり、遊ばせたりすることのできる場所・施設のこと。

目標とする指標一覧

政策	No.	指標名	指標の説明	基準数値(年度等)	目標数値(30年度)	目標設定の考え方
1	人を はぐくむ 教育と 歴史文化 がかおる まち	1 公民館利用者数	公民館利用者数(年間)	127,003人 (平成19年度)	133,000人	魅力ある学習活動を展開するとともに、利用者に対して快適な施設管理に努め、利用者数5%増を目指す。
		2 講座受講者数	生涯学習センター講座延べ受講者数	8,675人 (平成19年度)	9,500人	魅力ある学習活動を展開し、利用者に対して快適な施設管理に努め利用者数10%増を目指す。
		3 総合型地域スポーツクラブの会員数	NPO法人おやべスポーツクラブの登録年度末会員数	1,926人 (平成19年度)	2,300人	総合型地域スポーツクラブの充実により、現会員数の2割程度の増を目指す。
		4 市スポーツ施設の利用者数	市が所有するスポーツ施設の年間延べ利用者数	167千人 (平成19年度)	184千人	生涯スポーツの振興により、現利用者数の1割程度の増を目指す。
		5 幼稚園児数	在籍する幼稚園児数	43人 (平成20年5月1日現在)	45人	少子化の中ではあるが、幼稚園の教育内容の一層の充実を図ることにより、幼稚園児数の現状維持を目指す。
		6 学校給食における地場産食材使用率	学校給食における地場産食材使用率	15.8% (平成19年度)	20.0%	安全・安心な地元産食材の学校給食への提供により地産地消の増を目指す。
		7 小中学校耐震化率	全棟数に対する耐震化の改修が不要な棟数及び改修済みの棟数の割合	13棟/22棟 59.1%	22棟/22棟 100.0%	耐震補強工事を必要とするすべての小中学校の耐震補強工事の完了を目指す。
		8 公民館における青少年対象事業参加延べ人数	一年間の公民館における青少年対象事業の参加延べ人数	6,165人 (平成19年度)	6,200人	青少年人口が減少するなか、青少年対象事業を継続して実施し、参加延べ人数の現状維持を目指す。
		9 勤労青少年ホーム利用者数	一年間の勤労青少年ホーム利用者数	6,913人 (平成19年度)	7,000人	勤労青少年ホームが青少年の活動拠点となるよう機能強化し利用者の現状維持を目指す。
		10 市美術展観覧者数	市美術展の開催期間中の総観覧者数	1,786人 (平成15~19年度の5年間平均)	2,200人	美術展の内容充実により平均観覧者数の2割程度の増を目指す。
		11 指定文化財数	市指定の文化財の数	45件 (平成19年度)	50件	市指定文化財候補15件のうち3割程度の指定を目指す。
		12 伝統芸能の保存団体数	石動曳山祭り・獅子舞祭り・津沢夜高行燈祭りの保存団体数(保存会等)	109団体 (平成19年度)	109団体	石動曳山祭り(11)・獅子舞祭り(84)・津沢夜高行燈祭り(14)の保存団体数の現状維持を目指す。
2	福祉に いだから 健康と	13 肺がん検診受診率	40歳以上で他に検診機会のない住民の肺がん検診受診率	43.4% (平成19年度)	50.0%	死亡原因で最も多い「悪性新生物」のうち、部位別で最も多い肺がんを早期発見するため、国が示す50%以上の受診率目標を参考とする。
		14 むし歯罹患率	3歳児健診(歯科)の罹患率	32.1% (平成19年度)	30%以下	「県民歯の健康プランの目標」に基づく数値目標を参考とする。

政策	No.	指標名	指標の説明	基準数値(年度等)	目標数値(30年度)	目標設定の考え方
2 人がやすらぐ健康と福祉にいだかれるまち	15	市内救急患者の市内病院受入率	救急搬送者に対する市内病院搬送者の割合	52.6% (平成19年度)	56.1%	救急搬送者の市内受入割合が低下傾向にあるなか、市医師会との協力を得ながら一次救急医療体制の充実強化を図るため、平成18年水準を目標とする。
	16	福祉ボランティア活動を行っている人数	市社会福祉協議会ボランティアセンターに登録している人数	3,223人 (平成19年度)	3,550人	福祉活動の推進を目指すため10%の増加を見込む。
	17	ファミリーサポートセンター利用実績(件数)	利用延べ件数	585件 (平成19年度)	640件	PRによる利用回数の増加や利用者負担の低減化により10%増を目指す。
	18	シルバー人材センター会員登録率	シルバー人材センター会員登録者の60歳人口に占める割合 (会員登録者数/60歳以上人口)	3.7% (平成19年度)	4.5%	高齢者の生きがいと収入増を兼ねた就労確保の場であるシルバー人材センターの活用を図り、会員登録率の増を目指す。
	19	ふれあいいきいきサロン参加率	ふれあいいきいきサロンへの60歳人口1人当たりの年間延べ参加回数 (延べ参加者数/60歳以上人口)	1.4回/人 (平成19年度)	1.7回/人	地域の高齢者が自ら介護予防事業を展開しているふれあいいきいきサロンの団体を支援し、一般高齢者の介護予防の推進を図り、参加回数の増を目指す。
	20	「日中活動の場」サービス利用者数	「日中活動の場」サービスを利用した延べ人日/年	延6,883人日/年 (平成19年度)	延30,000人日/年	障害福祉計画を踏まえて設定する。
	21	グループホーム入居者数	グループホームに入居した障害者数	19人 (平成19年度)	28人	障害福祉計画を踏まえて設定する。
	22	要介護者認定率	高齢者人口に対する要介護の認定を受けている者の割合 (要介護者/高齢者数)	12.1% (平成19年度)	10%	国の「新健康フロンティア戦略」における要介護者減少目標値(平成26年)を参考として設定する。
	23	特定健診受診率	対象者に対する受診者の割合 (受信者/対象者)	64.8% (平成19年度 基本健康診査)	80%	国における平成27年度特定健診受診率の目標値(80%)を参考として設定する。
3 人でにぎわう産業と経済の活力あるまち	24	認定農業者数	意欲のある農業者が自らの経営を改善するために5年後を目標として作成した改善計画を市が認定した者	52人 (平成19年度)	64人	特定農業団体からの法人化により目標達成を目指す。
	25	担い手への農地集積率	効率的かつ安全的な農業経営が地域の農用地に占める面積割合	62.4% (平成19年度)	65.0%	確実な面積占有率を目標数値にし、集落営農組織化等によりさらなる集積を目指す。
	26	特産物の年間出荷販売額	特産物(加工品含む)の年間出荷販売額	りんご727万円 里いも270万円 栗 200万円 (平成19年度)	→1,000万円 →400万円 →540万円	園芸産地ビジョンの計画に基づき、目標出荷販売額を目指す。

政策	No.	指標名	指標の説明	基準数値(年度等)	目標数値(30年度)	目標設定の考え方
3 人でにぎわう産業と経済の活力あるまち	27	特産物の生産量・作付面積	特産物の生産量または作付面積	はと麦 0.3ha そば 11.6ha 1.0t 5.1t (平成19年度)	20ha 40t 15ha 10.5t	小矢部市水田農業ビジョンに基づき、目標生産量等を目指す。
	28	製造品出荷額	市統計による市内の年間製造品出荷額	887億円 (平成18年度)	現状維持	既存企業の新增設及び市内への企業移転支援により現状維持を目指す。
	29	稲葉山牧野和牛の出荷頭数	稲葉山牧野の和牛年間出荷頭数	32頭 (平成19年度)	100頭	市場への安定供給を目指す。
	30	小矢部フロンティアパーク分譲率(面積等)	事業用地の分譲面積率(事業用地/全体面積)	7.86ha/12.7ha 62% (平成19年度)	100% (平成25年度)	東海地方における企業への誘致活動の充実に努め、計画当初の目標である分譲開始後10年間の完売を目指す。
	31	工場立地件数(暦年)	工場、研究所の建設を目的で1,000㎡以上の用地を取得・賃貸した件数(工場立地動向調査)	4社 (平成19年度)	累計件数 25社 (年平均2.5社×10年間)	景気動向に左右されるため、立地件数を確保することは困難だが、適地調査の実施による迅速な用地確保に努めるとともに、誘致活動、支援制度、ワンストップサービス体制等を充実し立地件数の増を目指す。
	32	商業インキュベータ独立者数	商業インキュベータから巣立ち、市内で開業する商業者の数	0件 (平成19年度)	8件 (商業インキュベータ使用者の5割)	商業インキュベータ使用者から市内開業する商業者が5割以上になることを目指す。
	33	商品販売額(飲食店を除く)	市内年間商品販売額	531億円 (平成19年度)	現状維持	地域商業の活性化により現状維持を目指す。
34	新規就業者数	市内企業へ新規に就労する学生等の数	82人 (平成19年度)	100人 (現状維持)	市内企業のPR・求人情報の提供により現状維持以上を目指す。	
4 人がゆきかう都市空間と交流にあふれるまち	35	石動駅南地区の整備済面積	石動駅南地区約58%に係る土地区画整理事業によって、整備が進んだ面積	44ha (平成15年度)	58.1ha	石動駅南地区での土地区画整理事業による新市街地整備を目指す。
	36	都市計画街路の整備率	都市計画道路延長に対する整備済(改良済、概成済)延長率	71.4% (平成12年度)	74.2%	現在事業中の街路整備促進により事業区間の完成と未着手区間の着手を目指す。
	37	歩道バリアフリー化延長	歩道のバリアフリー化が行われた延長	160m (平成19年度)	1,270m	市道新富町桜町線等における歩道のバリアフリー化を目指す。
	38	住民一人当たりの公園面積	都市公園・都市緑地の面積/人口	9.37㎡/人 (平成14年~18年の5年間平均)	10.5㎡/人	都市公園整備により住民一人当たり面積の増を目指す。
	39	公園管理の地区委託・ボランティアグループ数	公園管理を委託している地区及び公園を美化しているボランティアグループの総数	9団体 (平成19年度)	20団体	地区委託・ボランティアグループの倍増を目指す。

政策	No.	指標名	指標の説明	基準数値(年度等)	目標数値(30年度)	目標設定の考え方
4 人がゆきかう都市空間と交流にあふれるまち	40	木造住宅耐震化率	住宅で耐震性が十分と推計される住戸の率	46.0% (平成15年度)	60.0%	木造住宅耐震改修支援事業の広報活動等により耐震改修の推進を目指す。
	41	市営住宅のバリアフリー化率	(住戸内の段差解消・手摺り取付を行った住宅戸数) / (全体の住宅戸数)	52.2% (平成19年度)	73.8%	公共賃貸住宅再生マスタープランにおける再生団地計画の推進を目指す。
	42	市営バス1便当たりの利用者数	市営バス1便当たりの利用者数	5.0人 (平成19年度)	9.4人	既存利用者以外の利用客の獲得を目指す。
	43	超高速ブロードバンドの世帯カバー率	上り下り30Mbps以上の超高速ブロードバンドが使用可能なサービスエリア	38.4% (平成19年度)	70.0%	光ケーブルの敷設地域を拡大し、市内の大部分を網羅する。
	44	観光客入込数	市内観光地、祭り等年間来客総数	600千人 (平成15～19年度の5年間平均)	1,000千人	観光事業の振興により、祭り・イベント及び観光施設の来客数の増を目指す。
	45	国際交流イベント(講座)の充実	国際交流イベントの開催回数	年2回 (平成19年度)	年4回	市内在住外国人との交流機会を充実させ、地域における在住外国人との共生を図る。
5 人にやさしい環境と安全安心につつまれるまち	46	一般廃棄物排出量	小矢部市で年間に排出されたゴミの量	9,087t (平成18年度)	8,619t	循環型社会形成推進地域計画の基準年度の概ね5%減を目指す。
	47	再生利用量(リサイクル量)	再生化ごみ量/ごみ排出量	1,641t (平成18年度)	2,258t	循環型社会形成推進地域計画の基準年度の概ね26%増を目指す。
	48	風雪被害森林整備面積	民有林の風雪被害森林の整備面積	35ha (平成19年度)	142ha	みどりの森再生事業、県単独森林整備事業及び流域公益保全整備事業により整備を推進する。
	49	里山再生整備面積	里山林の再生整備面積(小矢部市森づくりプランによる)	2ha (平成19年度)	10ha	里山再生整備事業及び森林病虫害等防除事業により整備を推進する。
	50	消雪施設整備組合数	消雪施設を新規に整備する組合数	54組合 (平成19年度)	57組合	機械除雪による押雪場所がなく、非効率的な地区外排雪が余儀なくされている地域への、消雪施設設置を行う。
	51	水道普及率	給水人口/行政区内人口	62.6% (平成19年度末)	65.0%	計画的な整備を進めるとともに、使用水量の増に向け啓発活動を推進する。
	52	汚水処理人口普及率	下水道に農村下水道、合併処理浄化槽を含めた普及率	67.4% (平成19年度末)	80.0%	下水道の計画的な整備を進めるとともに、合併処理浄化槽事業を推進する。
53	自主防災組織(自治会単位)の組織率(%)	204ある自治会のうち、組織化された数の割合(%)	82.8% (平成19年度)	100.0%	市内18地区の自主防災会の組織率は、既に100%となっているが、よりきめ細かな体制が取れるよう自治会単位の組織化を進める。	

政策	No.	指標名	指標の説明	基準数値(年度等)	目標数値(30年度)	目標設定の考え方
5 人にやさしい環境と安全安心につつまれるまち	54	橋梁点検数	橋長15m以上の橋梁数	0橋 (平成19年度)	62橋	市が管理する511橋梁のうち、規模の大きい橋長15m以上の橋梁について点検する。
	55	普通救命講習の有資格者数	普通救命講習の年間取得有資格者数	年間289人 (平成19年度)	年間300人	市民の1家族に1名の市民救命士を目指す。
	56	交通事故件数の推移	交通事故等発生件数	159件 (平成15～19年の5年間平均)	140件	交通ルールやマナーの向上に努め、事故発生件数10%減を目指す。
	57	刑法犯認知件数	小矢部警察署管内における刑法犯認知件数	180件 (平成19年)	135件	自主防犯の強化を図り、件数の減少を図る。
	58	地区安全なまちづくり推進センター設置数	地区安全なまちづくり推進センターの設置数	14地区 (平成19年度)	18地区	市内全地区で地区推進センターの設置を行う。
6 人がふれあう市民協働と自治体経営をささえるまち	59	NPO法人数	市内で設立されたNPO法人の数	7法人 (平成19年9月)	15法人	富山県の平成27年度目標数値の36法人/10万人(平成17時点で全国第2位)を参考に、NPO法人数を設定する。
	60	審議会における女性委員の割合	各種審議会における女性委員の割合	25.0% (平成19年度)	50.0%	女性の意見を採り入れることで、細やかな視点からソフト事業の充実を目指す観点から、50%への増加を目指す。
	61	男女共同参画フォーラム参加人数	男女共同参画に対する認識を深めるための講座や講演への参加者数	300人 (平成19年度)	600人	フォーラム等を通じて、女性参画に対する理解・認識を深めることとし、参加者の増加を目指す。
	62	人権研修会の参加者数	一般対象と職員対象の研修会・講演会参加人数	73人 (平成19年度)	300人	参加者数を、人権に対する意識化の度合いとみる。
	63	啓発活動	啓発回数(CATV、HP)	2回 (平成19年度)	12回	まず、市民への働きかけを行い、その結果がどうであるかを評価したい。
	64	めるへん市民塾開催数	年度間の「めるへん市民塾」の開催数	41回/年 (平成15年～19年の5年間平均)	50回/年	市政への関心の高さを反映する指標と考えられ、年50回の開催を目指す。
	65	実質公債費比率	収入に占める、実質的な公債費の割合	21.3% (平成19年度)	18.0%以内	公債費負担の軽減に取り組み、現在の許可団体から協議団体への移行を目指す。
	66	経常収支比率	経常一般的な収入のうち、義務的な経費に充てられた割合	90.3% (平成19年度)	90.0%以内	弾力的な行政運営を確保するために0.3%減を目標にする。
67	市税収納率	市税調定額に対する収納率	92.6% (平成15～19年度の5年間平均)	93.3%	地方への税源移譲のため個人市民税の収納率低下が予想されるが、市税全体では過去5年間で最高の収納率確保を目指す。	